

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。
 市民協働課 ☎82・2130/IP ☎88・9085

1 今年もやります

「薬草講座」!

宇陀松山まち協

宇陀松山まち協では、5月24日(日)に宇陀松山会館で薬草講座(全7回)の第1回を開催しました。

講師は奈良県薬事研究センター総括主任研究員の西原正和氏で、今年で3年目となります。テーマは「薬用植物のある暮らし」。今回は「春、薬草との出会い」をテーマに、身近な植物を薬として見る視点を学びました。

当日は55人が受講し、全講座を予約する方も多く、市外・県外からの参加も見られました。愛知県豊田市からの参加者は「ホーム

ページで知り、興味があつて来ました」と話されていました。会場周辺の混雑により開始を10分遅らせましたが、講座では資料を用いた丁寧な解説が行われ、参加者は熱心にメモを取っていました。

まち協では「薬草のまち宇陀」の魅力発信に加え、重要伝統的建造物群保存地区の歴史について学ぶ「歴史講座」を予定しており、今後も松山地域の情報発信に努めていきます。



▲講義風景



▲薬草の販売も

2 田植え体験会開催

菟田野まち協

5月12日(火)、菟田野小学校5年生21人を対象とした田植え体験会を開催しました。

児童たちにとって初めての田植え体験ということで、最初は戸惑いや緊張も見られましたが、時間が経つにつれてコツを掴み、最後には全員が上手に苗を植えることができました。終了後には、「楽しかった」「少し難しかったけど、気持ちよかった」との感想があり、自然と触れ合いながら学ぶ貴重な経験を得たようです。秋には同じ田んぼで収穫体験を実施予定で、自分たちが植えた苗が実を結ぶ瞬間を楽しみにしている児童の様子も印象的でした。



▲初めての体験にドキドキ

また、当まち協では、「農業体験実行委員会」を今年度より設立し、農業に関するイベントを一元的に取りまとめ、事業を進めていきます。その取り組みの一環として、秋の収穫体験会に向けた準備が進行中です。5月30日(土)には、さつまいもの苗350本、落花生の苗120本を植え、スタッフは、心地いい汗を流しながら作業を行い、「無事に育ってくれますように」との期待を込めた日となりました。



▲無事に育ちますように...



▲田植え頑張りました!

3 元気に楽しく!!

笠間地区まち協

5月24日(日)室生下笠間地区にある「下笠間なごみ会館」で、住民同士の交流を深める「下笠間いきいきサロン会」が、今年度も元気にスタートしました。この会を開催したのは、下笠間地区住民の地域サロン「お茶め会」の皆さんです。

年に4回のペースで、下笠間地区在住の65歳以上の方を対象に、歌や体操、創作、お茶会等を開催しています。



▲懐かしの曲に合わせて運動中

今回は、懐かしい思い出の歌と、その歌に合わせた簡単な手足の運動、そして創作活動として「可愛い猫の壁掛けフック」作りに取り組み、参加者同士で楽しく会話を交わしながら制作しました。

最後は、役員による手作り大福を日本茶と共に味わっていただき、この日はお開きとなりました。

短い時間でしたが、こうした交流を続けることにより、住民同士や地域の活性化にもつながると思います。今後も試行錯誤を重ねながら、活動を続けていきます。



▲創作活動の様子



薬

ベニバナポロギク

ポロギク

ベニバナポロギクは戦後入ってきたアフリカ原産の外來種で、山林の伐採跡地や林の周辺、休耕地などに突然生え、大きな群落をつくります。山で腹痛や下痢になった際に、ベニバナポロギクをみそ汁の中に切り込み、煮て食べれば克服できます。誰が使い始めたのか分かりませんが、森林で働く人の間では、よく知られている薬草なのです。病気以外の健康な人が食べても、何ら問題はありませぬ。また、量を多く取ったか

ら便秘になるというものでもありません。それなのに、腹痛や下痢が治まるのです。この若芽か、若葉、若い茎を摘みとり、塩ゆでして冷水にさらし、ごまあえ、クルミあえなどにします。花はきれいなので、姿揚げにするとおいしく食べられます。ベニバナポロギクはおいしいので、一度食べたら病みつきになるかもしれません。外來種でも、身近にあれば、山菜として料理に使うことができ、健康にもいいので、食べられる薬草はさらに広がるのです。



※当市で「薬草活用講演会」をしていたいただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075